

2004年9月29日

淀川水系流域委員会 様

宇治・世界遺産を守る会
代表世話人 須田稔

宇治川塔の島地区の自然景観・歴史的景観を保全し、再生するために検討をいただくための資料を送付いたします。

宇治川の自然景観・歴史的景観をとりもどし、子どもたちが水遊びできる宇治川を取り戻すことが願いです。

宇治川は天ヶ瀬ダム建設（1964（昭和 39）年完成）によって大きく変貌したが、現在進行中の天ヶ瀬ダム再開発・1,500トン放流計画関連工事によって、それ以上の破壊が進行しています。世界遺産を生み出した宇治川の景勝、世界遺産と一体となった宇治川の歴史的景観を保全し後世に残すことは私たちの責務です。宇治川の景観をとりもどし、子どもたちが水遊びできる宇治川を取り戻すことが願いです。

1,宇治川はどう変わってきたか。

天ヶ瀬ダム再開発・1500トン/秒放流計画の関連工事による変化。

A, 塔の島、橘島東半分の掘削工事による変化

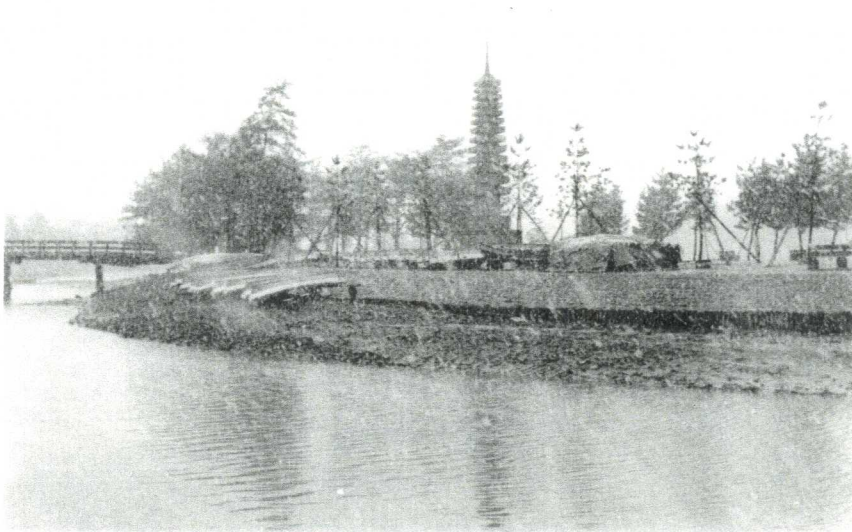


昭和40年頃の宇治川・塔の島周辺。砂洲があり人々が河原に下りて遊んでいる。

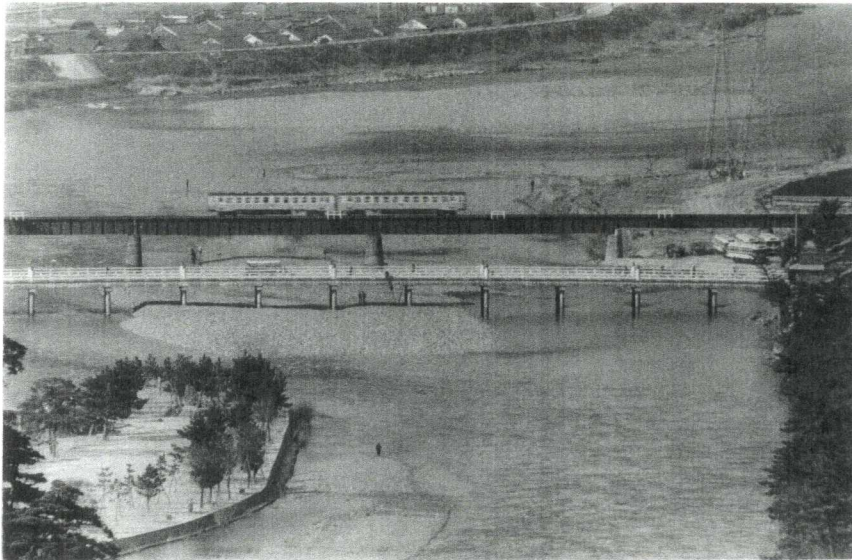


平成元年頃の宇治川・塔の島周辺。塔の島と橘島の東半分が削減され、護岸は直線化し、45度の傾斜

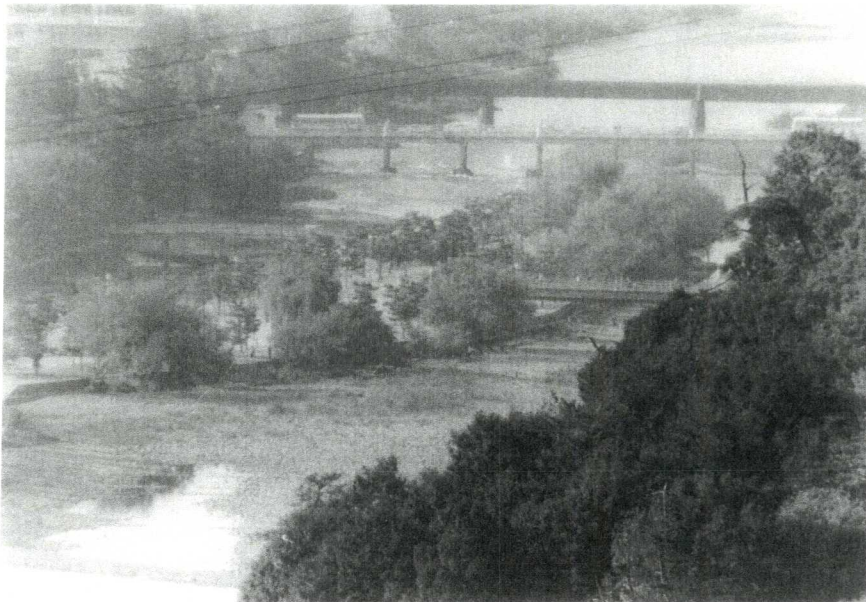
面となった。砂州はなくなっている。



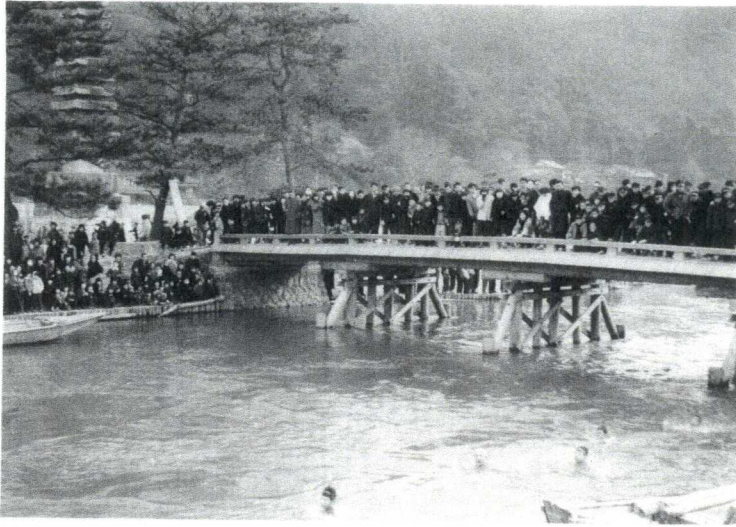
昭和30年代後半の塔の川



昭和41年1月 宇治川(宇治市) 掘削前の橋島、宇治橋の下にも砂洲が発達している。



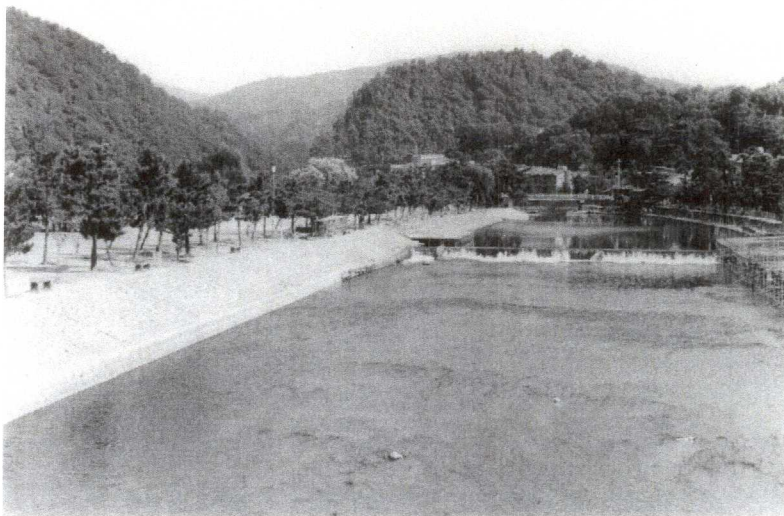
昭和53年8月掘削前の橋島(宇治市)



昭和31年 塔の川の寒中水泳（宇治市）。塔の川では昭和29年水泳学園がはじまった。



平成元年 塔の川のボート遊び(宇治市)



昭和53年8月、塔の川の「どんど」が中ほどにある。左岸に花火観賞席をつくるパイプ組がある。

B, 塔の川の締切堤設置による変化。



喜撰橋から上流の塔の川締切堤をのぞむ

塔の川と宇治川を道路のように寸断する締切堤。2000（平成12）年建設。工事費用2億円。導水管から毎秒3トンの流入水では、塔の川は藻が異常繁殖して悪臭も発生。撤去せよとの声も上がっている。



締切堤 建設費用2億円



締切堤



塔の川、繁茂した藻の撤去作業、年2回費用約500万円。

C、天ヶ瀬吊橋から塔の川への導水管敷設工事による変化。



導水管で旅館の窓際の眺めは台無しに。

天ヶ瀬吊り橋から塔の川まで道路のように宇治川左岸を埋め立てた導水管敷設工事。工事費用は12億円。



導水管敷設と道路拡幅で白川浜はコンクリートの下に。

導水敷設と天ヶ瀬ダム大トンネル工事用の道路拡幅工事（2002、3（平成14、15）年、約3億円）のために様変わりした白川浜。



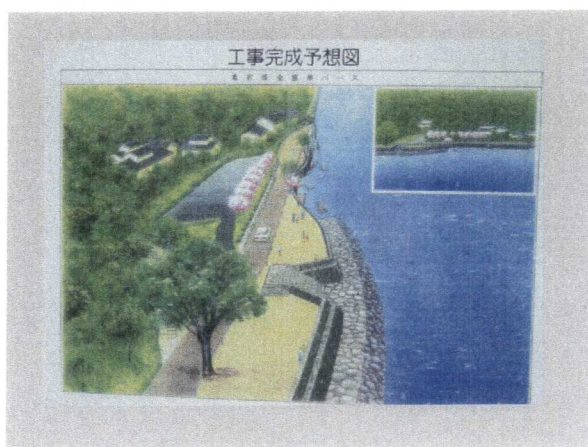
白川浜周辺、導水管敷設でコンクリートの下に。

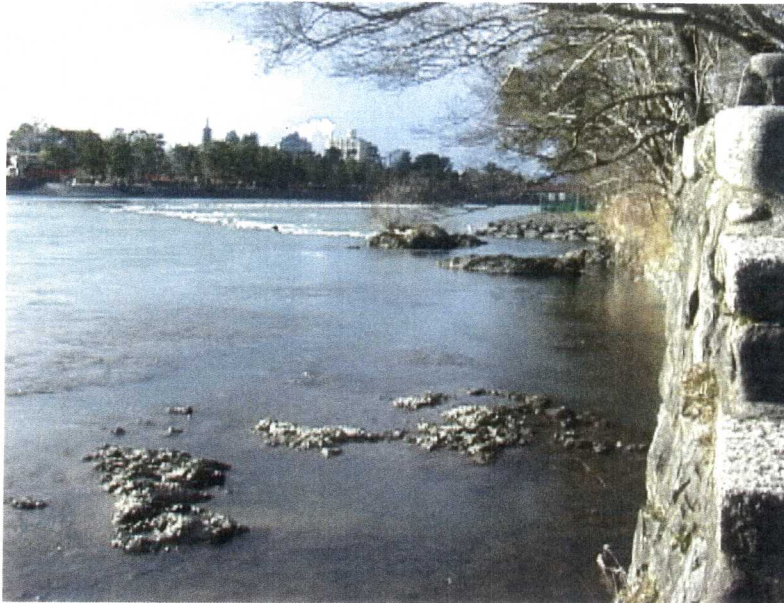


昭和59年11月17日、湯水の宇治川 白川浜上流付近

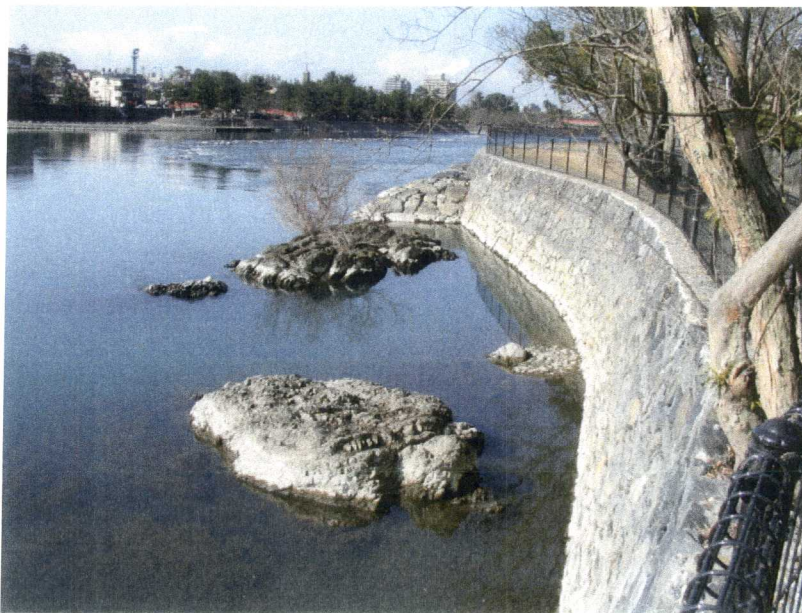
C、亀石周辺 宇治山田地区護岸工事による変化。

平成13年、宇治川を埋め立てた宇治山田地区護岸工事（3億円）。宇治川の清流の中にあつた亀石は埋め立てによって水が滞留し、ドブの中の亀石となった。汚水が流れ込み悪臭がする。亀石周辺は石とコンクリートで固められた。

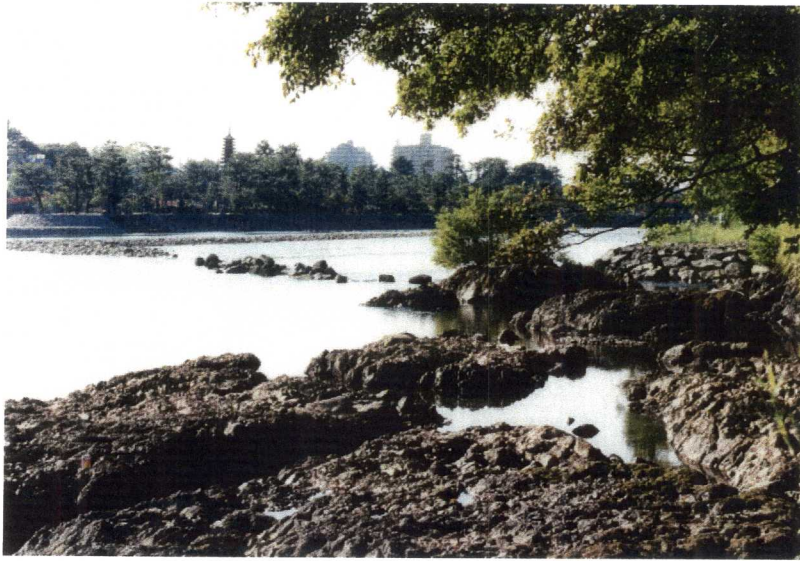




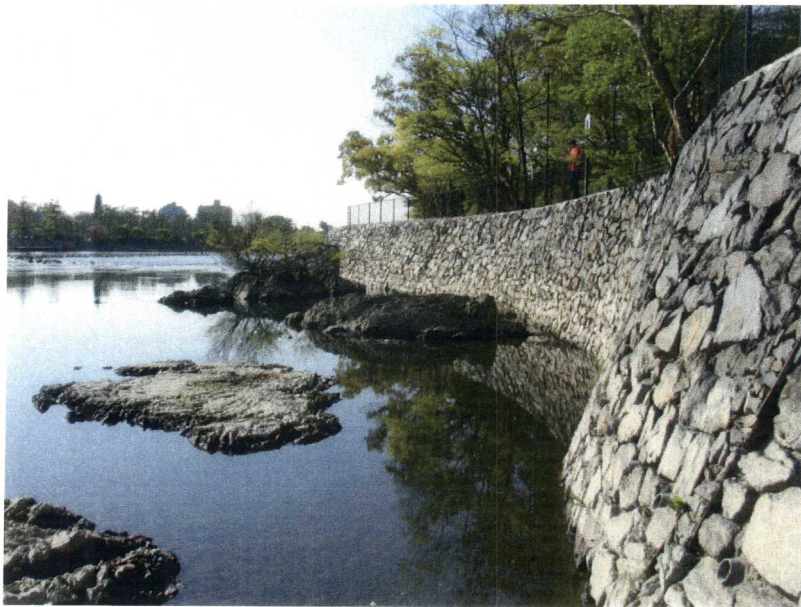
護岸工事前の亀石



護岸工事によってどぶの中となった亀石



護岸工事前の亀石周辺



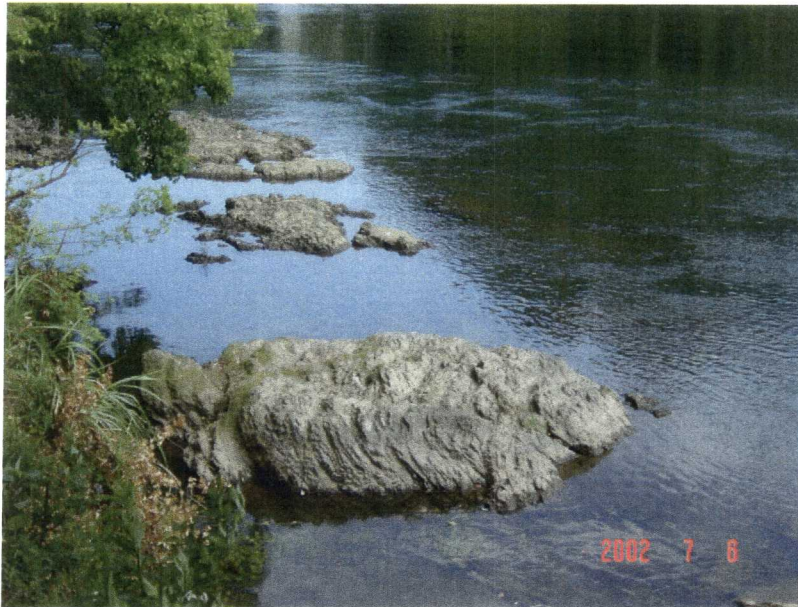
護岸工事後の亀石 手前の岩は工事で削られている。



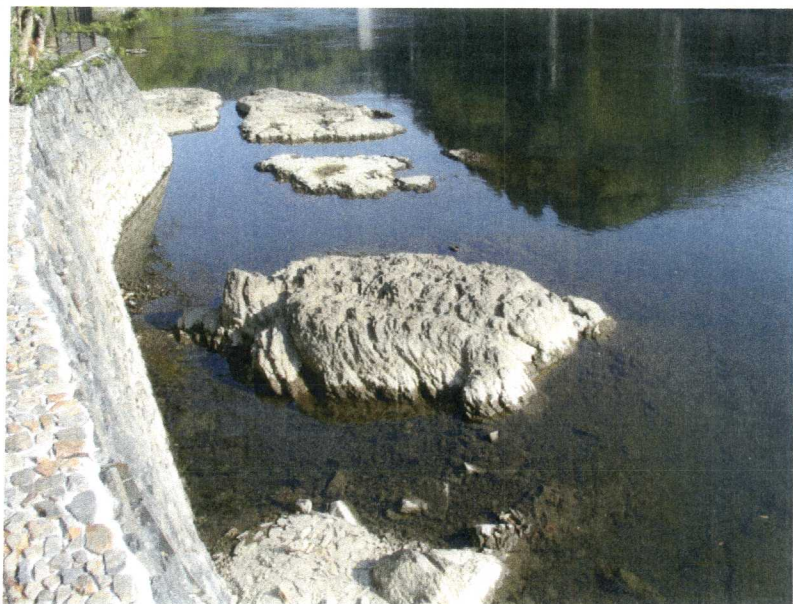
護岸工事後の亀石周辺 コンクリートで固められた



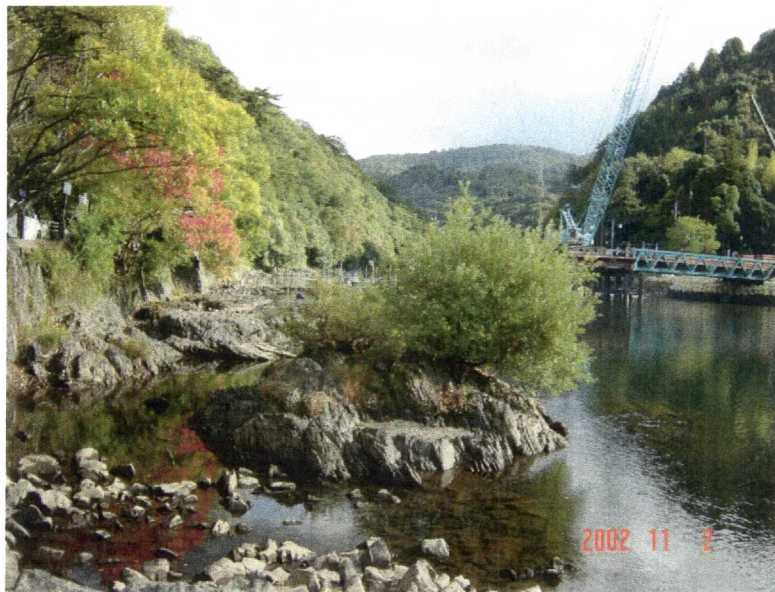
昭和59年11月17日 湯水の宇治川 亀石（宇治市）



護岸工事前の亀石



護岸工事後の亀石



護岸工事前の亀石周辺

D、宇治橋左岸上流の宇治川埋め立て工事による変化。



宇治橋左岸上流、何のために昔の岸から大きく宇治川を埋め立てたのか、塔の川床止工事（平成4年）。ナカセコカワニナ主要生息地も台無しか？この上流に係船施設設置計画がある。係船施設建設は地元町内会の反対で工事がストップしている。



宇治川を埋め立てた塔の川床止め工事場所から宇治橋を見る



昭和35年頃の宇治橋（宇治市）

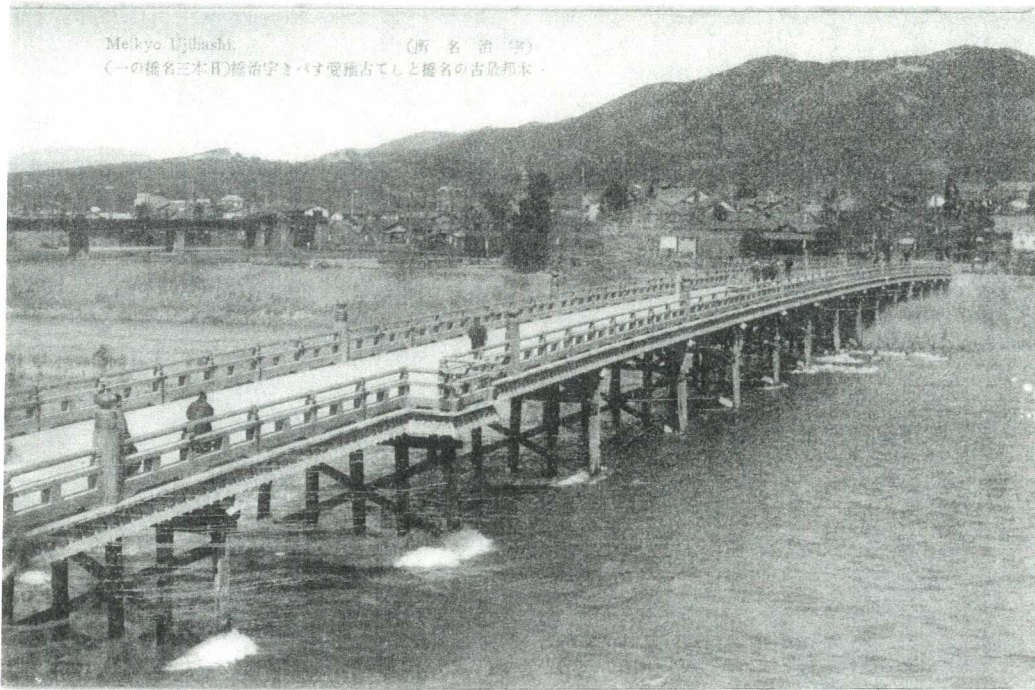


昭和35年頃の宇治橋 国鉄奈良線の鉄橋から（宇治市）

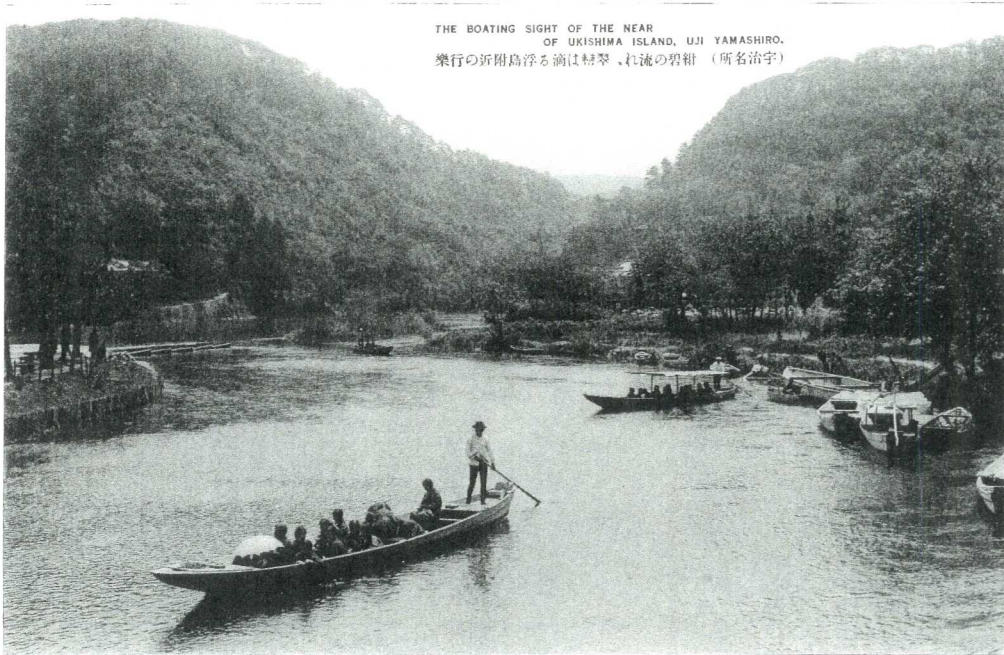
明治、大正、昭和初期の宇治川（宇治市歴史資料館所蔵の絵葉書から）



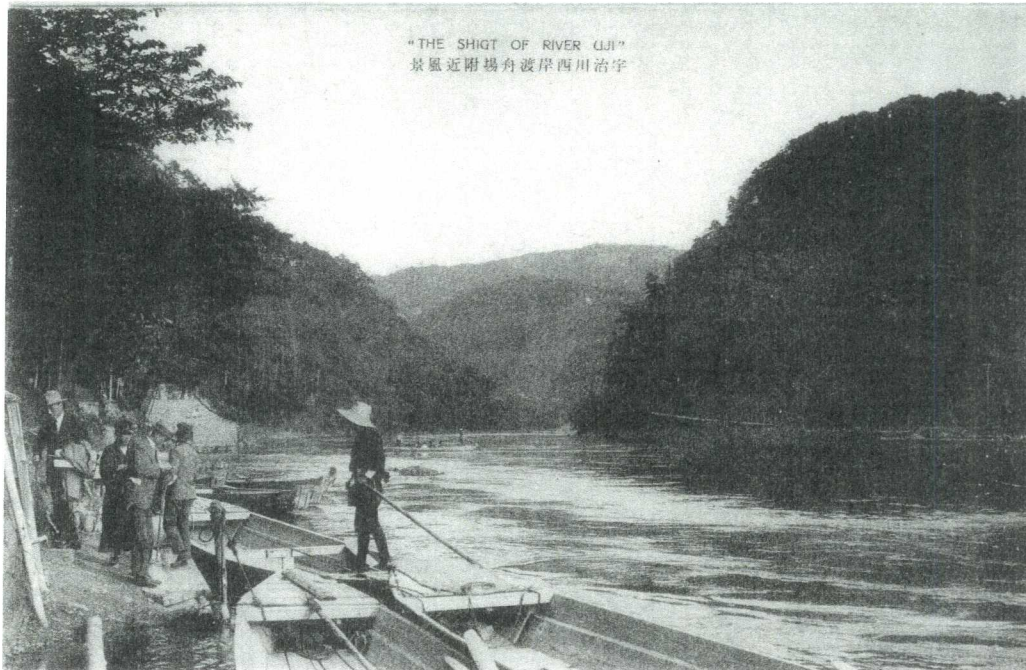
宇治橋三の間から上流を見る



宇治橋



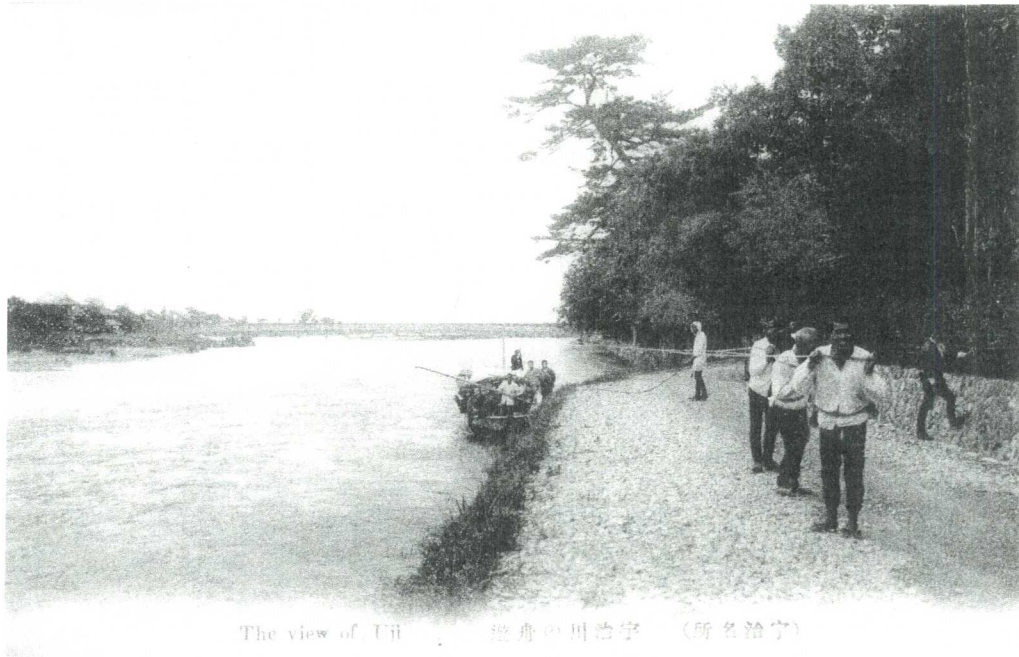
塔の川で舟遊び



亀石付近の渡し船



亀石付近



- A、塔の島、橋島の東半分を掘削
 B、塔の川締切堤の設置 2000年（平成12年）
 C、天ヶ瀬吊り橋から塔の川へ導水管敷設と大トンネル工事のための道路拡幅工事 平成12年、13年
 D、亀石周辺・宇治山田地区の護岸 平成13年
 E、宇治橋左岸上流の舟係留場工事 平成4年

塔の島地区関連工事に要した費用（国土交通省近畿地方整備局の回答）

護岸工 約47億円、橋梁工 約26億円、導水路工 約12億円、用地補償その他 約6億円
 合計 約91億円

個別 塔の川締切堤設置 約2億円、宇治山田護岸工事 約3億円、藻対策 約5百万円/年間。

●天ヶ瀬ダム大トンネル 330億円（当初計画）

宇治の生命線 母なる川 宇治川

宇治市史全6巻があります。日本史学の林屋辰三郎教授と地理学の藤岡謙二郎教授の両氏が編集責任者となり宇治市長が発行者です。昭和53年（1978年）2月15日発行の第4巻「近代の歴史と景観」の「結章 未来への展望」で次のように書かれています。

「宇治の生命線とは一体何かというならば、一貫して宇治川のながれのなかに宿されていたといえるであろう。」

「宇治市の未来は、開発に名を藉りた破壊から宇治川をいかに防衛し、その両岸に生み出された文化をいかに活用していくかにかかっている。それを大前提としてはじめて未来都市を論ずることができる。」

宇治川は宇治市民のシンボル景観

「世界遺産の平等院および宇治上神社とその間を流れる宇治川流域一帯の景観をとくに宇治市民のシンボルとして位置づけます。このシンボル景観を背景も含めて保全し、後世に引き継いでゆくことを、市民ならびに事業者および公共機関の務めとします」（2003年2月、宇治市都市景観審議会（広原盛明会長）答申）。

宇治市は、2003年3月（平成15年）、宇治市都市景観形成基本計画で平等院・宇治上神社とその間を流れる宇治川流域一体の景観を、宇治市民のシンボルと位置付けました。また都市計画マスタープランにおいてもシンボル景観と位置付けました。

宇治市はすべてが美しくなければならない

「宇治市は、世界遺産を含む歴史的建造物群と宇治川を中心とする自然景観に恵まれた比類なき美しい都市です。宇治市はまた、美しくあることを世界から求められている文化都市でもあります。したがって、宇治市の都市計画・まちづくりは、この美しさを継承し創造してゆくことを最高理念として構築され、追求されなければならないでしょう。都市景観の形成は、すなわち都市を美的側面から創造する行為です。そこには市民一人一人の高い美意識とまちづくり参加に支えられた、市当局の揺るぎない都市計画・環境・建築・文化行政が求められます。このような観点から、今後、本計画の実施にあたっては、審議会での意見や審議経過を十分に反映し、市民主体で着実に実行されるよう要望します。なお、付帯意見として、宇治市の都市景観の心臓部ともいべき宇治橋周辺地域一帯につきましては、都市計画法及び関連法制を適用される中適切に景観形成をはかられるよう申し添えます。」（宇治市都市景観形成基本計画について（答申） 宇治市都市計画審議会 会長 広原盛明 の答申の前文から）

以上